

平成 20 年度第 2 回登録販売者試験問題 前半

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

第 3 章 主な医薬品とその作用

受験番号

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。
- b 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。
- c 医薬品について、薬事法では、健康被害発生の可能性の有無が重要であり、異物等の混入、変質については特に問題にはならない旨を定めている。
- d 医薬品の販売等を行う者は、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもあるので、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問2

次の記述は、WHO（世界保健機関）が医薬品の副作用を定義したものである。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に（ a ）用いられる量で発現する医薬品の（ b ）かつ（ c ）反応」とされている。

	a	b	c
1	通常	有害	意図しない
2	過剰に	有害	意図しない
3	通常	無害	意図しない
4	過剰に	無害	意図した
5	通常	有害	意図した

問3

医薬品に対するアレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギーは、内服薬だけに起こるものであり、外用薬では引き起こされることはない。
- b アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となりうるものは、医薬品の有効成分だけであり、基本的に薬理作用がない添加物では起こらない。
- c 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品の使用により、思わぬアレルギーを生じることがある。
- d アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問4

一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、その使用を判断する主体が一般の生活者であることから、販売時における専門家の関与が特に重要である。
- b 一般用医薬品は作用が緩和であるため、症状が改善されないまま使用し続けても有害事象を招く危険性が増すことはない。
- c 一般用医薬品を使用して、症状を一時的に緩和するだけの対処を続けていると、適切な治療の機会を失うことがある。
- d 人体に直接使用されない一般用医薬品では、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤っても、有害事象につながることはない。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問5

医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品をみだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取しても、急性中毒等を生じることはない。
- b 一般用医薬品は、安全性が高いので、乱用の繰り返しによって慢性的な臓器障害等を生じるおそれはない。
- c 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要がある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問6

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、「多く飲めば早く効く」と短絡的に考えて、定められた用量を超える量を服用した場合は有害事象につながる危険性が高い。
- b 一般用医薬品にも、習慣性がある成分を含んでいるものがある。
- c 一般用医薬品による薬物依存が形成されても、容易に依存から離脱できる。
- d 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問7

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいる(配合される)ことが多く、他の医薬品と併用した場合に、同様な作用を持つ成分が重複することがある。
- b 一般用医薬品を選択する際には、副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合は、なるべくその症状に合った成分のみが配合されたものを選択することが望ましい。
- c 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、同時に使用できない薬剤が医療機関・薬局から交付されている場合には、診療を行った医師若しくは歯科医師又は調剤した薬剤師に相談するよう説明がなされるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問8

医薬品の使用上の注意等において、乳児のおおよその目安としての年齢区分のうち、正しいものはどれか。

- 1 1ヶ月未満
- 2 3ヶ月未満
- 3 6ヶ月未満
- 4 1歳未満
- 5 3歳未満

問9

小児の医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- b 小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であり、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強くと過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- d 小児用の用法用量が定められていない医薬品の場合は、成人用の医薬品の量を減らして小児に与えるよう、保護者に対して説明して販売すればよい。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問10

高齢者に対する一般用医薬品の販売等に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の販売等に際しては、実際にその医薬品を使用する高齢者の個々の状況に即して、適切に情報提供や相談対応がなされることが重要である。
- 2 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合はない。
- 3 高齢者によくみられる傾向として、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
- 4 高齢者では、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があることから、医薬品の安全使用の観点からの配慮が重要となることがある。

問 11

妊婦、妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）が一般用医薬品を使用する場合の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が一般用医薬品を使用する場合、妊婦の状態を通じて胎児に影響を及ぼすことがないよう配慮する必要がある。
- b 胎児の血液と母胎の血液とが混ざらない仕組み（胎盤関門）によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、すべて解明されているので、胎盤関門を通過しない医薬品については、特段の配慮を必要としない。
- c 妊婦が便秘薬を使用する場合、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある医薬品があるので、十分注意して適正に使用するか、又は使用そのものを避ける必要がある。
- d 母乳を介して乳児に好ましくない影響が及ぶことが知られている医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 12

次の医薬品成分のうち、使用上の注意において、胎児毒性の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は「相談すること」とされているものはどれか。

- 1 ビタミンC
- 2 ウルソデオキシコール酸
- 3 リパーゼ
- 4 ビタミンE
- 5 ジアスターゼ

問 13

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、薬理作用として意図的に生じさせる作用をプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- c 通常、医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には望ましいもの（効果）のみがあり、不都合なもの（副作用）はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 14

第 1 欄の記述は、薬事法第 25 条第 1 項の一般用医薬品の定義である。（ ）内に入れるべき正しい字句は、第 2 欄のどれか。

第 1 欄

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の（ ）から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの

第 2 欄

- 1 医療関係者 2 病院関係者 3 医薬関係者 4 製薬関係者 5 研究関係者

問 15

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれる必要がある。
- b 医薬品は適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化を避けることができる。
- c 医薬品の外箱等に記載されている使用期限は、いったん開封されたとしても品質が保持される期限である。
- d 一般用医薬品では、購入後すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 16

セルフメディケーションに関する記述について、(a) 及び (b) に入る字句の正しい組み合わせはどれか。

近年、身近にある一般用医薬品を利用する「セルフメディケーション」の考え方がみられるようになってきている。WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に (a) を持ち、(b) な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。

	a	b
1	自信	軽度
2	自信	重度
3	責任	軽度
4	責任	重度
5	希望	軽度

問 17

一般用医薬品の販売に従事する専門家が医薬品を販売する際に購入者に確認しておきたい基本的なポイントに関する記述の正誤について、最も適切な組み合わせはどれか。

- a その医薬品を何のために購入しようとしているのか。
- b その医薬品を使用する人は、購入者本人なのか、その家族なのか。
- c その医薬品を使用する人が、医療機関で治療を受けていないか。
- d その医薬品を使用する人が、健康保険に加入しているか。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	誤

問 18

サリドマイド訴訟に関する記述について、()内に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の(b)(サリドマイド胎芽症)が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b
1	催眠鎮静剤	免疫異常
2	滋養強壯剤	先天異常
3	鎮咳去痰剤	先天異常
4	滋養強壯剤	免疫異常
5	催眠鎮静剤	先天異常

問 19

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症(スモン)に罹患したことに対する損害賠償訴訟をスモン訴訟という。
- b キノホルム製剤は、米国では1960年にアメーバ赤痢に使用が制限されたことを受け、我が国でも同年にすみやかに販売が停止された。
- c スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、世帯厚生資金貸付による生活資金の貸付、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
- d スモン訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 20

H I V及びC J Dに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 H I V訴訟は、ヒト免疫不全ウイルス(H I V)が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 H I V訴訟を踏まえ、国では血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られるとともに、薬事行政組織の再編、情報公開の推進等がなされた。
- 3 C J D訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 4 C J Dは、ウイルスの一種であるプリオンが原因とされる。

第3章 主な医薬品とその作用

問1

かぜに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜの症状として、一般的には、急激な発熱、くしゃみ、鼻閉（鼻づまり）、咽頭痛、悪心・嘔吐、下痢等が現れることが多い。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除くことにより、かぜの諸症状の緩和を図る医薬品の総称である。
- c かぜ薬には、カフェインが配合されている場合があるが、カフェインが配合されているからといって、他にかぜ薬に配合される鎮静成分等の作用による眠気が解消されるわけではない。
- d かぜは単一の疾患ではなく、主にウイルスが鼻や喉に感染して起こる様々な症状の総称である。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問2

漢方処方製剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 葛根湯は、かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされているが、重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。
- b 麻黄湯は、くしゃみや鼻汁・鼻づまり等の鼻炎症状、薄い水様の痰を伴う咳、気管支炎、気管支喘息の呼吸器症状に適すとされている。
- c 小柴胡湯は、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- d 小青竜湯は、かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしづしが痛い場合に適するとされている。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問3

解熱鎮痛成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)は、一般用医薬品では、小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっているほか、(b)等については、15歳未満の小児で水痘又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。

しかしながら、一般の生活者にとって、かぜとインフルエンザとの識別は必ずしも容易でないため、インフルエンザの流行期等には、必要に応じて購入者に対して積極的に注意を促す、又は、解熱鎮痛成分が(c)や生薬成分のみからなる製品の選択を提案する等の対応を図ることが重要である。

	a	b	c
1	エテンザミド	アスピリン	アセトアミノフェン
2	エテンザミド	アセトアミノフェン	アスピリン
3	アスピリン	エテンザミド	アセトアミノフェン
4	アスピリン	アセトアミノフェン	エテンザミド
5	アセトアミノフェン	エテンザミド	アスピリン

問4

解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンには、解熱鎮痛作用のほか、血液を凝固しにくくさせる作用があるため、胎児や出産への影響を考慮して、出産予定日12週間以内の使用を避ける必要がある。
- b エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが中心である他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの伝わりを抑える働きが優位であるとされており、そうした作用の違いによる効果を期待して、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多い。
- c アセトアミノフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられており、抗炎症作用は期待できない。
- d イソプロピルアンチピリンは、医療用医薬品も含めて我が国で使用されている唯一のピリン系解熱鎮痛成分であり、解熱や鎮痛の作用が比較的強いが、抗炎症作用は弱いとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問5

一般用医薬品を購入するために来店した顧客から、以下のとおり症状についての訴え等があった。この顧客への対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- ・顧客の年齢、性別：30代の男性
- ・治療中の疾患や服用中の薬はないが、最近、胃の調子がよくない。
- ・昨日からのどに痛みがあり、咳、鼻水が出ている。
- ・発熱があるため、解熱鎮痛成分を含む医薬品の購入を希望している。
- ・大豆アレルギーがある。
- ・車を運転する仕事をしている。

- a 解熱鎮痛成分を含む医薬品を購入したいとのことであったが、胃の調子が良くないとのことであったので、アセトアミノフェンであれば、他の解熱鎮痛成分と比べて胃腸障害が比較的少ないと説明した。
- b 解熱鎮痛成分であるイブプロフェンは、解熱鎮痛作用のほか、抗炎症作用も示すが、胃・十二指腸潰瘍等の既往歴がある人では、それらの疾患の再発を招くおそれがあることを説明した。
- c 鼻水の症状を訴えているが、車の運転をする仕事をしているとのことであるため、マレイン酸クロルフェニラミン等の眠気が現れることのある成分を含む医薬品の選択には注意が必要である。
- d 大豆アレルギーがあるとのことから、塩化リゾチームを配合した医薬品は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問6

次の記述により示される医薬品成分として、正しいものはどれか。

抗めまい成分である本品は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。また、抗ヒスタミン成分と共通する化学構造や薬理作用を持ち、抗ヒスタミン成分や抗コリン成分と同様な副作用が現れることがある。

- | | | |
|-------------------|------------|-----------|
| 1 アリルイソプロピルアセチル尿素 | 2 塩酸ピリドキシン | 3 ジプロフィリン |
| 4 塩酸ジフェニドール | 5 ロートエキス | |

問7

痛みや発熱が起こる仕組み、解熱鎮痛薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 発熱は、細菌やウイルス等の感染等に対する生体の防御機能の一つとして引き起こされる症状である。
- b 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すものでなく、発熱や痛みを鎮めるため使用される医薬品の総称であり、多くの場合、体内でのプロスタグランジンの産生を促進する成分が配合されている。
- c 化学的に合成された解熱鎮痛成分に共通して、重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群等を生じることがある。
- d 解熱鎮痛成分の副作用として、「アスピリン^{ぜん}喘息」がよく知られているが、これはアスピリン特有の副作用である。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問8

眠気を促す薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、一時的な睡眠障害に用いられるものではない。
- 2 プロムワレリル尿素を含有する医薬品は、少量でも眠気を催しやすいため、乗物や機械類の運転を避けることが必要であるほか、胎児障害の可能性があるため妊婦の服用は避けることが望ましい。
- 3 カノコソウ、サンソウニン等は、医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}又は暗示されていなければ食品としても流通可能であるが、これら成分又は他の鎮静作用があるとされるハーブを含む食品を併せて摂取すると、医薬品の効き目が増強されることがある。
- 4 一般に寝つきが悪いときの対処として、アルコールの摂取がなされることがあるが、アリルイソプロピルアセチル尿素を含有する催眠鎮静薬をアルコールの摂取時に服用すると、その効き目が増強されることがある。

問9

眠気を防ぐ薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 カフェインは、脳に強い興奮状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を長期的に抑える効果が期待される。
- 2 カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を収縮させる働きがあり、尿量の減少をもたらす。
- 3 カフェインは、胃酸の分泌を抑える作用があるため、胃酸過多の症状のある人にも適するとされている。
- 4 眠気防止薬に小児向けの製品はないが、小・中学生の試験勉強に効果があると誤解され、誤用事故を起こした事例も知られており、小児に使用されることのないよう注意が必要である。

問10

小児鎮静薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き等の症状が現れることがあるが、成長に伴って自然に治まるのが通常であるため、発達段階の一時的な症状と保護者が達観することも重要である。
- b 小児の疳は、痩せて血が少ないことから生じると考えられており、小児鎮静薬には、ゴオウやジャコウ等の鎮静作用や血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- c 女性から、「子供の夜泣きに悩んでいるので、生後2ヶ月の乳児でも服用可能な医薬品はないか」との相談があったので、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない漢方処方製剤であれば服用させても問題ないと説明した。
- d 小児鎮静薬を一定期間又は一定回数以上服用させても症状の改善がみられない場合は、その他の原因（例えば、食事アレルギーやウイルス性胃腸炎など）に起因する可能性も考えられるため、漫然と使用を継続せず、医療機関を受診させることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 11

次の記述により示される医薬品成分として、正しいものはどれか。

中枢神経系に作用して咳を抑える作用を持つこの医薬品は、モルヒネと同じ基本構造を持ち、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、特に内服液剤では、本来の目的以外の意図で服用する不適正な使用がなされることがある。

- 1 塩酸メチルエフェドリン 2 ブロムワレリル尿素 3 ニコチン酸アミド
4 リン酸ジヒドロコデイン 5 臭化水素酸スコポラミン

問 12

口腔咽喉薬及びうがい薬(含嗽薬)に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするものである。
- b 含嗽薬は、用時水で希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- c 喉の痛みや喉の腫れ等の症状を鎮めることを目的として、塩化セチルピリジニウム、塩化ベンゼトニウム等の抗炎症成分が用いられる。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬は、局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身性の重篤な副作用を生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 13

次の記述により示される生薬成分として、正しいものはどれか。

クマ科のヒグマ又はその他近縁動物の胆汁の乾燥物を用いた生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化成分として配合される場合もある。

- 1 リュウノウ
- 2 ボウイ
- 3 センブリ
- 4 リュウタン
- 5 ユウタン

問 14

胃の薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃内容物の刺激によって促進される胃液分泌から胃粘膜を保護することを目的としており、食後に服用することとなっているものが多く、食前又は食間に服用すると十分な効果が得られない。
- b 胃の薬には、胃粘膜保護・修復成分として、スクラルファートが配合されている場合があるが、スクラルファートはアルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では、使用を避ける必要がある。
- c ジアスターゼやプロザイムは、胃粘液の分泌を促す作用や胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する作用を期待して、胃の薬に配合されている場合がある。
- d ウルソデオキシコール酸、デヒドロコール酸は、消化を助ける効果を期待して用いられるほか、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人では、かえって症状を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 15

腸の薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 日本薬局方収載のヒマシ油は、大腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられており、腸管内容物の急速な排除を目的として用いられる。
- 2 酸化マグネシウムや水酸化マグネシウム等の無機塩類は、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すことを目的として使用される。
- 3 センナやダイオウ中に存在するセンノシドは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに、糞便を柔らかくすることにより、瀉下作用を示す。
- 4 ジオクチルソジウムスルホサキシネート（DSS）やマルツエキスは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して瀉下作用を示すが、大量に摂取した場合には逆に止瀉作用が現れることがある。

問 16

胃腸鎮痛鎮痙薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副交感神経系が刺激されると、胃液の分泌が亢進されるため、抗コリン成分は、胃痛、腹痛、さしこみを鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。
- b 塩酸パパベリンは、胃腸の痙攣を鎮める作用を示すが、胃液分泌を抑える作用はないとされている。
- c オキセサゼインは、消化管の粘膜に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果期待して、胃腸鎮痛鎮痙薬に配合されている場合があるが、乳幼児ではメトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- d 嘔吐や発熱等を伴う原因不明の腹痛が30分以上続く場合には、医師の診療を受けるまでの当座の対処として、一般用医薬品の胃腸鎮痛鎮痙薬を使用して痛みを緩和させ、医療機関を受診することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 17

駆虫薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 駆虫薬は、腸管内の寄生虫に対して、これを駆除するために用いられる。一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫^{ぎょうちゅう}であり、条虫（いわゆるサナダ虫など）や吸虫等の駆除を目的とする一般用医薬品はない。
- 2 回虫は、肛門^{こうもん}から這い出してその周囲に産卵するため、肛門部の痒み^{かゆ}やそれに伴う不眠を引き起こすことがある。
- 3 駆虫薬は一度に多く服用したり、複数の種類を併用したりすることで、駆虫効果が高まり、また、副作用を生じる危険性が低くなる。
- 4 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため瀉下薬^{しゃげつやく}が併用されることがあり、ヒマシ油を使用すると腸管内に残留する駆虫成分の排出が促進される。

問 18

強心薬に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

()はヒキガエル科のシナヒキガエルの毒腺^{どくせん}の分泌物を集めたもので、微量で心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用を示す。皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示し、()が配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺^{まひ}することがあるため、噛まずに服用することとされている。

- 1 ゴオウ
- 2 ジャコウ
- 3 レイヨウカク
- 4 ロクジョウ
- 5 センソ

問 19

高コレステロール改善成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リノール酸は、コレステロールと結合し、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされている。
- b ビタミンB₁（塩酸チアミン）は、過酸化脂質と結合し、その代謝を促す作用を期待して、高コレステロール改善薬に配合されている場合があり、摂取により尿が黄色くなることがある。
- c ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として用いられる。
- d 葉酸は、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるほか、高密度リポ蛋白質（HDL）の分解を促すとされている。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問 20

貧血症状と貧血用薬に関する記述について、（ ）の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、（ ）内はすべて同じ字句が入る。

貧血は、その原因によりビタミン欠乏性貧血、（ ）欠乏性貧血等に分類されるが、一般的な症状として、疲労、動悸、息切れ、血色不良、頭痛、耳鳴り、めまい、微熱、皮膚や粘膜の蒼白、下半身のむくみ等が現れる。

貧血用薬は、（ ）欠乏性貧血に対して不足している（ ）分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。

- 1 金
- 2 銅
- 3 鉄
- 4 マンガン
- 5 コバルト

問 21

痔に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

痔の病態の一つである痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に(a)し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。痔核のうち内痔核は、直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より(b)の直腸粘膜にできたもので、(c)出血等の症状が現れる。

- | | a | b | c |
|---|----|----|---------|
| 1 | 拡張 | 下部 | 排便時に |
| 2 | 拡張 | 下部 | 排便と関係なく |
| 3 | 拡張 | 上部 | 排便時に |
| 4 | 収縮 | 上部 | 排便と関係なく |
| 5 | 収縮 | 下部 | 排便時に |

問 22

痔疾用薬に配合される成分に関する以下の記述について、正しいものはどれか。

- 1 グリチルレチン酸は、比較的緩和な抗炎症作用を示す成分である。
- 2 タンニン酸は、局所の殺菌消毒を目的に配合される場合がある。
- 3 クロタミトンは、局所麻酔成分である。
- 4 アラントインは、痔に伴う痛み・痒みを和らげる目的で配合されている。

問 23

婦人薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 女性ホルモンの一種であるエストラジオールを含む婦人薬は、一般用医薬品では内服薬のみ配合が認められている。
- b 内服で用いられる婦人薬は、比較的作用が穏やかで、ある程度長期間使用されることを前提としており、他の婦人薬等との併用により副作用が起こりやすくなることはない。
- c サフランは、鎮静、鎮痛作用のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- d 女性ホルモン成分を含む婦人薬を妊婦が使用すると、胎児に先天性異常が発生する場合があります、妊婦は使用を避ける必要がある。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 24

アレルギー及びアレルギー用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギー用薬には、抗ヒスタミン成分を主体とし、抗炎症成分やアドレナリン作動成分等が配合されている場合がある。
- b アレルギーは、アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込み、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって肥満細胞が刺激され、ヒスタミン等が遊離することにより生じる。
- c 一般用医薬品のアレルギー用薬は、^{じん}麻疹や^{しん}湿疹、アトピー性皮膚炎による慢性^{しん}湿疹等を目的とするものである。
- d 皮膚症状が治まると^{ぜん}喘息が現れるというように、連鎖的にアレルギー症状が現れる場合には、一般用医薬品のアレルギー用薬を予防的に使用することが重要となる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 25

次の表は、ある鼻炎用内服薬に含まれている成分の一覧である。

2 カプセル中		
塩酸プソイドエフェドリン	60	mg
マレイン酸カルビノキサミン	6	mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.2	mg
塩化リゾチーム	15	mg (力価)
無水カフェイン	50	mg

この鼻炎用内服薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸プソイドエフェドリン - 鼻粘膜の充血や腫れを和らげる
- b マレイン酸カルビノキサミン - ヒスタミンの働きを抑える
- c ベラドンナ総アルカロイド - 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげる
- d 塩化リゾチーム - 皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給する

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 26

鼻炎用点鼻薬に配合される、アドレナリン作動成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

アドレナリン作動成分は、(a) 神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、(b) などが配合される。

アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると(c) 逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり(鼻閉)がひどくなりやすい。

	a	b	c
1	交感	塩酸ナファゾリン	鼻粘膜の血管が反応しなくなり
2	副交感	塩酸テトラヒドロゾリン	鼻粘膜の血管が反応しなくなり
3	交感	塩酸リドカイン	鼻粘膜の血管が反応しなくなり
4	副交感	塩酸リドカイン	ヒスタミンが遊離され
5	交感	塩酸テトラヒドロゾリン	ヒスタミンが遊離され

問 27

眼科用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眼科用薬の使用により、局所性の副作用として、目の充血や痒み等、点眼薬が適応とする症状と区別することが難しい症状があらわれる場合がある。
- b 一般用医薬品の点眼薬は、緑内障の症状を改善できるが、配合されている成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある場合がある。
- c 目の痛みが激しい場合には、急性緑内障、角膜潰瘍、眼球への外傷等を生じている可能性があり、その場合、すみやかに眼科専門医による適切な処置が施されなければ、視力障害等の後遺症を生じるおそれがある。
- d ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、点眼薬の配合成分がレンズに吸着されるため、すべての点眼薬について、装着したままの点眼は避けることとされている。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 28

ステロイド性抗炎症成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 外用の場合はいずれも末梢組織（患部局所）におけるプロスタグランジンなどの炎症を引き起こす物質の産生を抑える作用を示し、特に、痒みや発赤などの皮膚症状を抑えることを目的として用いられる。
- 2 好ましくない作用として末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示し、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染（水虫・たむし等の白癬症、にきび、化膿症状）や持続的な刺激感の副作用が現れることがある。
- 3 外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分には、体の一部分に生じた湿疹、皮膚炎等の一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）の緩和を目的とするものと、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象としたものがある。
- 4 ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して 1 g 又は 1 mL 中 0.025mg を超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。

問 29

痒み、腫れ、痛み等を抑える配合成分に用いる局所麻酔成分及び抗ヒスタミン成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 切り傷、擦り傷、掻き傷等の創傷面の痛みや、湿疹、皮膚炎等による皮膚の痒みを和らげることを目的として、塩酸ジブカイン等の局所麻酔成分が配合されている場合がある。
- b アンモニアは、皮下の知覚神経に麻痺を起こさせる成分として、主に虫さされによる痒みに用いられる。皮膚刺激性は弱いので、粘膜（口唇等）や目の周りへ使用してもよいとされている。
- c 外用薬で用いられる抗ヒスタミン成分は、適用部位の組織に浸透して、肥満細胞からヒスタミンが遊離されるのを妨げることにより、患部局所におけるヒスタミンの働きを抑える。
- d 外用薬で用いられる抗ヒスタミン成分の副作用として、患部の腫れが現れることがある。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 30

第 1 欄の記述は、非ステロイド性抗炎症成分に関するものである。()の中に入れるべき字句について、第 2 欄に掲げる成分のうち最も適するものはどれか。

第 1 欄

皮膚の炎症によるほてりや痒み等の緩和を目的として用いられる()は、まれに重篤な副作用として、接触皮膚炎を生じることがある。その他の副作用として、腫れ、刺激感（ヒリヒリ感）、光線過敏症、しみ（色素沈着）、皮膚乾燥が現れることがある。

第 2 欄

- 1 ブフェキサマク
- 2 インドメタシン
- 3 ピロキシカム
- 4 ケトプロフェン
- 5 デキサメタゾン

問 31

第 1 欄の記述は肌の角質化、かさつき等を改善する配合成分に関するものである。第 1 欄の記述に該当する成分として最も適するものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示すものであり、併せて抗菌、抗真菌作用も期待され、にきび用薬等に配合されている場合がある。

第 2 欄

- 1 オリーブ油
- 2 イオウ
- 3 グリセリン
- 4 尿素
- 5 白色ワセリン

問 32

歯痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品である歯痛薬は、むし歯による歯痛を応急的に鎮めることを目的とするものであり、早めに医療機関を受診して治療を受けることが基本となる。
- b 歯痛薬に用いられるサンシュユは、ミズキ科のサンシュユの偽果の果肉を用いた生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。
- c フェノール等の殺菌消毒成分は、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔^{くわう}粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。
- d 知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める目的で用いられる成分は、メントール、カンフル、ハッカ油、ユーカリ油である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 33

禁煙補助剤に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 禁煙補助剤として、ニコチン置換療法に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品(咀嚼剤)は、噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。
- b 口腔内が酸性になると、ニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- c ニコチンは副交感神経系を興奮させる作用を示し、抗コリン成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- d 急に喫煙を中止するとニコチン離脱症状が現れるため、禁煙補助剤は、1日の喫煙回数を徐々に減らしながら使用することが望ましい。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 34

滋養強壮保健薬に配合されるビタミン成分に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は()国際単位が上限となっているが、妊娠3ヶ月前から妊娠3ヶ月までの間に、ビタミンAを1日10000国際単位以上摂取した妊婦から生まれた新生児において先天異常の割合が上昇したとの報告がある。

- 1 1 0 0 0
- 2 2 0 0 0
- 3 4 0 0 0
- 4 8 0 0 0
- 5 1 6 0 0 0

問 35

滋養強壯保健薬に配合される生薬成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ニンジン^{ニンジ}は、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。
- 2 インヨウカク^イは、メギ科のイカリソウの^{つぼみ}蕾を含む葉及び茎を用いた生薬で、強壯、血行促進、強精等の作用を期待して用いられる。
- 3 ハンピ^ハは、クサリヘビ科のママシの皮及び内臓を取り除いたもの又は黒焼にしたもので、強壯、血行促進、強精等の作用を期待して用いられる。
- 4 ヨクイニン^{ヨク}は、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を用いた生薬で、強壯、血行促進、強精等の作用を期待して用いられる。

問 36

大柴胡湯^{だいさいことう}に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 体の虚弱な人、胃腸が弱く便秘しやすい人における胃炎、常習便秘、高血圧に伴う肩こり、頭痛、便秘の症状に適す。
- b 構成生薬としてダイオウを含む。
- c まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎が起こることが知られている。
- d 常習便秘、高血圧に伴う便秘に用いられる場合には、少なくとも1ヶ月以上長期に使用する必要がある。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 37

第 1 欄の記述は、ある漢方処方製剤の適用となる症状、体質、主な副作用の説明である。該当する漢方処方製剤は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

にきびに適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害が起こることが知られている。また、本剤の服用により、まれに症状が進行することもある。

第 2 欄

- 1 黄連解毒湯 おうれんげどくとう 2 防己黄耆湯 ぼういおうぎとう 3 清上防風湯 せいじょうぼうふうとう 4 防風通聖散 ぼうふうつうしょうさん
5 芍薬甘草湯 しゃくやくかんそうとう

問 38

消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クレゾール石鹼は結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して広い殺菌消毒作用を示す。
b エタノール、イソプロパノールは、アルコール分が微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
c 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対し殺菌消毒作用を示すので、人体に対する消毒によく用いられる。
d ジクロルイソシアヌル酸ナトリウム等の有機塩素系殺菌消毒成分は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 39

殺虫剤に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。
なお、3箇所の(a)内はすべて同じ字句が入る。

ジクロルボスやフェニトロチオンなど(a)の殺虫作用は、アセチルコリンを分解する酵素(コリンエステラーゼ)と不可逆的に結合し、その働きを阻害することによるものである。

プロポクスルに代表される(b)は、(a)と同様にコリンエステラーゼの阻害によって殺虫作用を示すが、(a)と異なり、コリンエステラーゼとの結合は可逆的である。

	a	b
1	有機リン系殺虫成分	ピレスロイド系殺虫成分
2	有機塩素系殺虫成分	カーバメイト系殺虫成分
3	有機塩素系殺虫成分	有機リン系殺虫成分
4	有機リン系殺虫成分	カーバメイト系殺虫成分
5	カーバメイト系殺虫成分	有機リン系殺虫成分

問 40

一般用検査薬とその使用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するように設計されており、対象物質が存在する検体であれば、必ず陽性と検出される。
- 2 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿、妊娠糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- 3 尿糖・尿蛋白検査薬は、長い時間尿に浸した方が、より正確な検査結果が得られる。
- 4 尿蛋白の検査は、原則として早朝尿、尿糖の検査には食前の尿を検体とする。